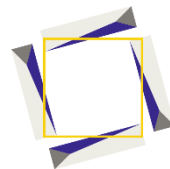


「デジタルと学びの明日を展望する」

FuLL (Future Learning Lab)

研究ラボ設立趣意と会員募集のご案内



GLOCOM

2022年10月

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

2022年10月1日、国際大学GLOCOMは、
新たな研究体制 **FuLL (Future Learning Lab)** を設立し
“デジタルと学びの明日を展望する” 研究活動をスタートしました



国際大学GLOCOMは、情報社会学の研究所として1991年に創立され、日本社会の発展とインターネットの普及とともに30年を歩んでまいりました。以来、主要研究テーマのひとつとして独自の取り組みを継続する分野が「教育(子どもの学び)×情報化」です。

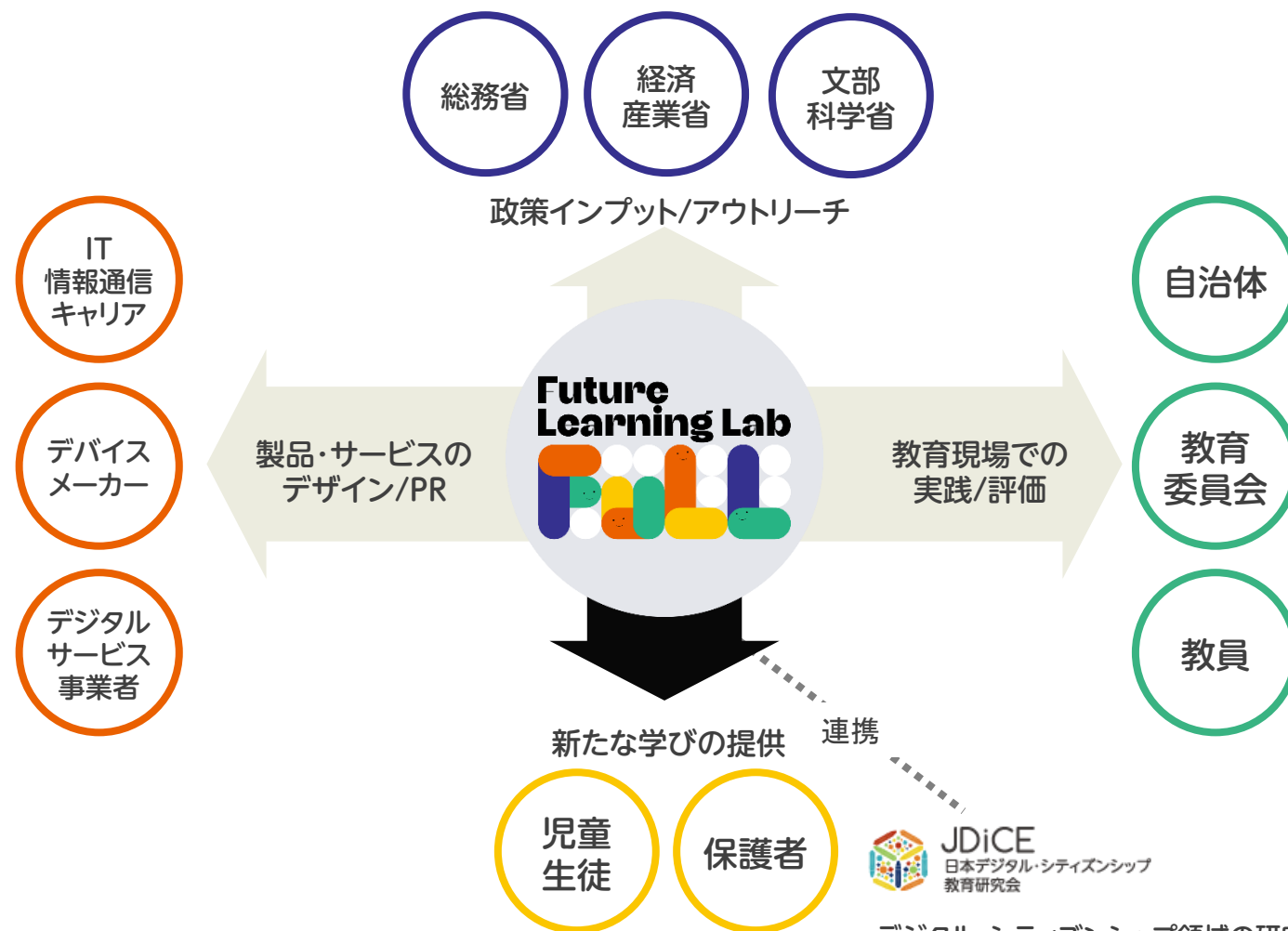
私たちが考える教育情報化の理念とは、子ども(学習者)本位の目線をもち、彼らの創造性発揮や社会的成長にテクノロジーを活かすことにあります。この思考を基盤に、情報社会の将来を見据えたバックキャスト的なアプローチや行政・企業のセクターを横断した課題設定のもと、様々な研究プロジェクトの立案、実践活動を展開しています。

デジタルの影響力が我々大人たちに資本主義や民主主義を問い直すまでに拡大するいま、子どもたちはGIGAスクール構想により1人1台のデジタルデバイスを学校・家庭で使いこなすことが求められています。正解のない未来に向かうなか、これからの社会をつくる次世代に、私たちはどのような生態系(エコシステム)を構築し、新たな学びを提供することができるでしょうか。

FuLLは産官学民の皆さまとともに、“デジタルと学びの明日を展望する”研究ラボです。

本活動へのご参画・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

FuLL(Future Learning Lab)の機能： 学びのステークホルダーの結節点



デジタル・シティズンシップ領域の研究活動は、
FuLLの研究会主査である国際大学GLOCOM豊福晋平が共同代表理事を務める
日本デジタル・シティズンシップ教育研究会との連携を予定しています。

FuLLの研究プログラム(計画)

① 研究会の開催

「学びの明日」をキーワードに、デジタル・シティズンシップ教育をはじめとする、テクノロジーと教育に関わる最新かつグローバルなテーマを設定し、参加者それぞれが話題提供を行うスタイルの研究会を開催します。

例:

- ✓ 教育研究者による研究発表
- ✓ 学校教職員による実践／実証報告
- ✓ 官公庁による教育政策の解説
- ✓ 事業者による製品・サービス紹介

頻度: 年2回(上期/下期に各1回)

形式: ハイブリッド形式(予定)

内容:

- ・開催ごとにテーマを設定、発表者を募集、選定
- ・発表者によるプレゼンのほか、参加者同士のネットワーキング・セッションを実施

② 教材開発プロジェクト

「学びの明日」に向けた実践活動として、**FuLL**オリジナル教材を開発し、一般に広く無料公開するプロジェクトです。企画開発は、国際大学GLOCOMが主導します。研究会ご参加の皆さまには、教材を先行公開し、コメントフィードバックにご協力いただくことを予定しています。

- ✓ 学校現場での対応が急務となっているデジタル・シティズンシップ教育を実践するための教材開発

頻度: 1テーマ／年

形式: 国際大学GLOCOMによる企画・開発

内容:

- ・**FuLL**メンバーの皆さまに教材の先行公開およびコメントフィードバックの受付
- ・企業からのご協力状況に応じてコマ数を決定

③ 教材実証/授業支援

②のプロジェクトで開発された教材を、学校現場で教職員の皆さまに活用いただくための支援プログラムです。教職員を対象に、授業実践のポイントを解説する勉強会の開催や、教職員の皆さま同士がお悩みや課題／成功事例を共有するオンラインコミュニティ運営を、**FuLL**がサポートいたします。

- ✓ 教育研究者によるポイント解説
- ✓ 学校教職員が集う交流イベント開催

①勉強会

頻度: 年3回(春・夏・冬休み期間に各1回)

形式: オンライン形式(予定)

②コミュニティ

頻度: 随時

形式: SNS(Facebookグループを利用)



2022年10月1日、第1回研究会兼キックオフとして
シンポジウムを開催いたしました

研究会キックオフ

GLOCOM創立30周年記念シンポジウム × Future Learning Labキックオフシンポジウム

「デジタルと学びの明日を展望する」2030 年代の学びの生態系とは何か

- 開催日時 : 2022年10月1日(土)13:00~17:45
- 開催場所 : 六本木アカデミーヒルズ 49F タワーホール
- 開催形態 : ハイブリッド形式(会場参加100名/YouTube配信)
- 対象者 : テクノロジーと教育に関心のある方
(教育・行政関係者・企業団体・保護者のみなさま)
- 参加費 : 無料(事前申込制)
- 主催 : 国際大学GLOCOM
- 後援 : 総務省、経済産業省
- 協力 : 日経BP



プログラム

12:30

開場

13:00-13:05

ご挨拶

— 松山良一(国際大学GLOCOM 所長)

13:05-13:15

イントロダクション「2030年代の学びの生態系を読み解く」

— 豊福晋平(国際大学GLOCOM 主幹研究員・准教授)

13:15-14:15

Session 1 テーマ PLAY

「デジタルの世界で子どもの旺盛な創作意欲や探求心をかなえるには何が必要か」

デジタルネイティブの子どもたちは生活のなかに溶け込んでいるデジタルのメディア環境をあたりまえのように使いこなします。ただ、現実の生活空間や大人世代の意識はともすれば、子どもたちの自由な発想や創造的な遊びに枠をはめてしまいます。子どもたちが存分にデジタルとわくわくするような戯れを可能にするには、どんなアプローチをすればよいのでしょうか？

- 讃井康智(ライフイズテック株式会社 取締役 最高教育戦略責任者(CESO))
- 侘美千夏(日本マイクロソフト株式会社 パブリックセクター事業本部 文教営業本部 事業戦略担当部長)
- 福島浩介(株式会社イトーキ DX推進本部 デジタルソリューション企画統括部 デジタル技術研究所)
- 荻島千佳(横浜市立東山田中学校 教諭／神奈川県公立中学校教育研究会教育部会 研究部 副部長)

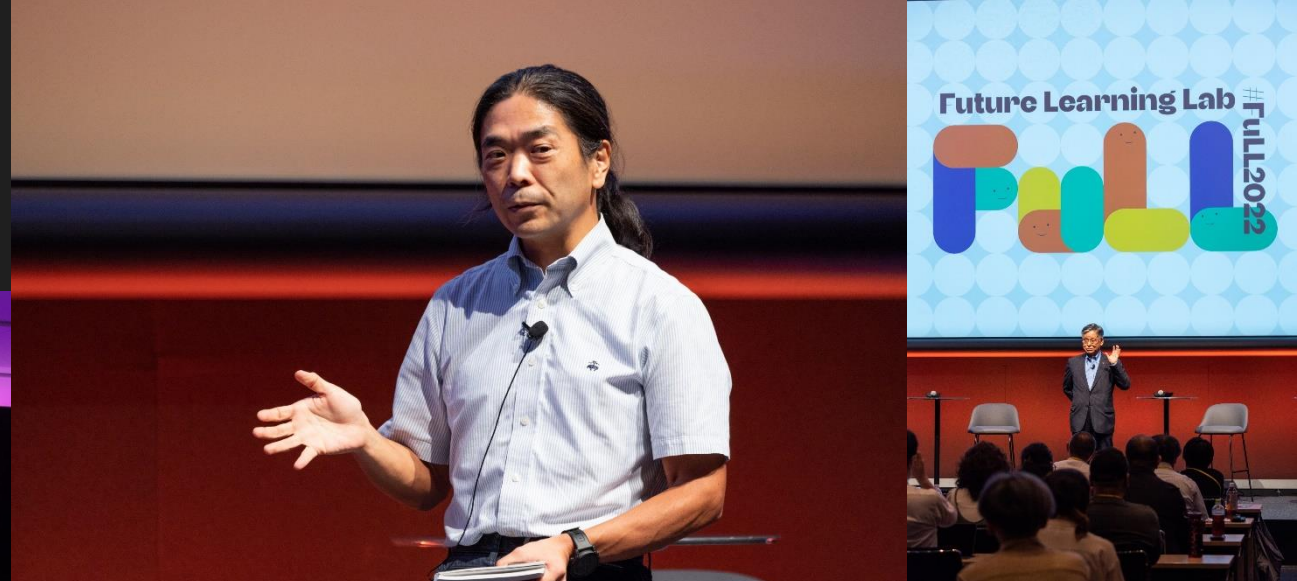
14:15-14:45

Intermission 1

※来場者相互の歓談&ポスターセッション



2022.10.01 FuLL Kickoff Event



14:45-15:45

Session 2 テーマ SHARE

「メディアの編集・共有を通じた学びの社会化で子どもたちは何を獲得するか」

GIGAスクール時代の学校が担うひとつの大きな役割は、学びを通じてデジタル環境での知識構築に関わり、それらを身近な他者や公共に伝える活動を通じて、社会参加のステップを歩むことにあります。研究者・メディアのプロ・教育側がそれぞれどのような関わり方をしていったらよいか考えます。

- 坂本旬(法政大学 キャリアデザイン学部 教授)
- 宮澤優子(高森町立高森北小学校・高森町子ども読書支援センター 司書)
- 小池晴子(アドビ株式会社 マーケティング本部 本部長(Adobe Express & エデュケーション))
- 丸山俊一(NHKエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー／東京藝術大学客員教授)

15:45-16:15

Intermission 2

16:15-17:15

Session 3 テーマ CONTRIBUTE

「テクノロジーで社会に参加し共に課題を乗り越えるために」

デジタル・コミュニケーションを通じて学校と社会とが関わりを深めれば、現実社会のさまざまな課題と直面し、これに立ち向かう機会も生じます。私たちが前向きに社会に関わりテクノロジーを駆使してこれらを解決するために、どのようなはたらきかけが必要でしょうか。

- 今度珠美(鳥取県デジタル・シティズンシップエデュケーター／国際大学GLOCOM客員研究員／日本デジタル・シティズンシップ教育研究会副代表理事)
- 山形巧哉(一般社団法人コード・フォー・ジャパン／国際大学GLOCOM客員研究員)
- 富永みずき(認定NPO法人カタリバ キッカケプログラム事務局)
- 古田大輔(ジャーナリスト/メディアコラボ代表)

17:15-17:45

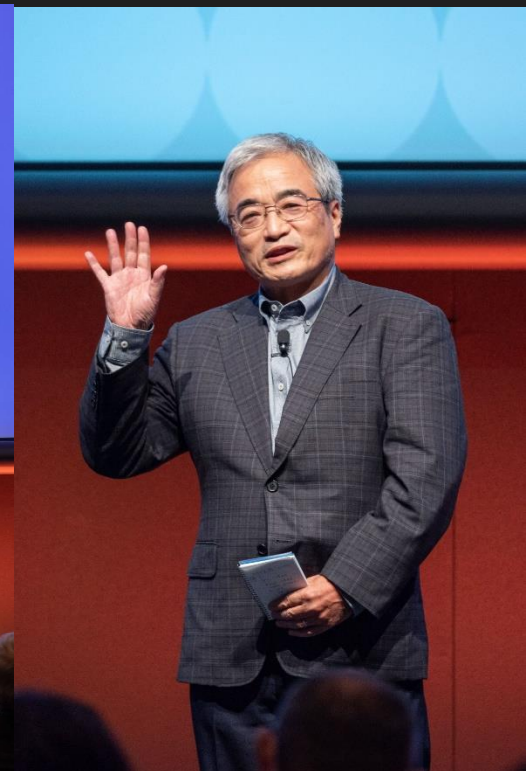
クロージングノート

- 豊福晋平(国際大学GLOCOM 主幹研究員・准教授)

17:45

閉会







ポスターセッション 出展者一覧

- 1 世田谷区教育委員会 様
- 2 GEG Himeji 姫路市立東小学校 様
- 3 渋谷区立千駄ヶ谷小学校 様
- 4 NPO 法人「みんなのコード」 様
- 5 JDICE/ 日本デジタル・シティズンシップ教育研究会 様

Intermission1
14:15-14:45

Intermission2
15:45-16:15

上記時間帯は説明員による
セッションを行います



教材開発プロジェクト

- 2022年度のFull教材開発プロジェクトは、GIGAスクールの開始以降、教職員・保護者の注目が集まるデジタル・シティズンシップ教育をテーマとします。
- 子どもが善き使い手としてポジティブにデジタルと向き合うための約束や方法について、アニメーション動画とワークシートを用いて、教室内あるいは自宅で保護者と対話しながら学んでいくことができます。
- 国際大学GLOCOMでは、2021年度の経済産業省「未来の教室」STEAMライブラリコンテンツ開発事業の採択を受け、すでに同サイト上で計8コマ(+教員・保護者向け解説1コマ)の教材を配布中です。
- Fullでは、その続編となるシリーズの開発を目指します。(詳細は次ページをご覧ください。)

出典: 経済産業省未来の教室STEAMライブラリ教材「GIGAスクール時代のテクノロジーとメディア～デジタル・シティズンシップから考える創造活動と学びの社会化」

制作・著作: 国際大学GLOCOM
動画制作: NHKエンタープライズ



小学校低学年向け



教員・保護者向け (教材解説)



小学校～高学年向け



中学生・高校生向け



教材開発の方向性

- ・ 米国Common Sense Educationが提供するデジタル・シティズンシップ教材には6つの主要テーマが設定されています。
- ・ 発達段階ごとの特徴に応じて、子どものデジタルとの関わり方が変化することから、大きく3つの年齢層ごとに6テーマを学べるシリーズを完結したいと考えています。
- ・ 教材は、同教材をベンチマークしながら、日本国内の学校現場や社会環境ならではのなじみ深いストーリーを用いて解説する形で開発します。



開発済み教材コンテンツ

※経済産業省「未来の教室」STEAMライブラリで公開中



デジタル・シティズンシップ教育の主要6テーマを、発達段階別かつ網羅的に学習できる教材開発を目指す

【デジタル・シティズンシップ教材コンテンツ開発ステイタス】

	デジタル・シティズンシップの6つのテーマ (出典:米国Common Sense Media)						デジタル・シティズンシップとは(教育理念)
	メディアバランスとウェルビーイング	プライバシーとセキュリティ	対人関係とコミュニケーション	デジタル足跡とアイデンティティ	ニュース・メディアリテラシー	オンラインのもめごと・ネットいじめ	
小学校低学年	一部公開中	一部公開中					
小学校中・高学年	一部公開中		一部公開中		一部公開中		
中学生・高校生				一部公開中	一部公開中		
保護者							○
教員							○
ICT支援員							

会員制度のご案内

10/1シンポジウムは、GLOCOM30周年記念活動の一環として開催いたします。

キックオフ以降の**FuLL**の活動は、“学びの明日”を共につくるためのメンバーシップ(会員)制度により運営いたします。
私たちの研究理念に賛同し、活動を支えてくださる企業会員様(有料)を募集しております。

区分	対象者	会員費※1	①研究会参加	②教材開発プロジェクト※2	③教材実証/授業支援
法人会員(A)	教育/IT関連事業者等	1□ 40万円、5□～	○ (5名まで)	・教材配布時に自社のロゴ/クレジットを表示 ・自社媒体での教材配布可	○
法人会員(B)	教育/IT関連事業者等	1□ 40万円、1□～	○ (2名まで)	—	①勉強会の聴講 ②コミュニティSNSの閲覧可
個人会員	学校教職員 官公庁/自治体関係者 研究者/学生	無料	○	—	○ ①勉強会の参加 ②コミュニティSNSの閲覧・投稿可

※1 年度会員費となります。請求時に消費税を加算させていただきます。

※2 ②教材開発プロジェクトは、法人会員(A)の参加数に応じて実施決定いたします。

担当研究員



FuLLラボ／研究会主査：

豊福 晋平

国際大学GLOCOM
情報社会研究グループ
主幹研究員／准教授

1967年北海道生まれ。横浜国立大学大学院教育学研究科修了、東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程中退、1995年より国際大学GLOCOMに勤務、専門は学校教育心理学・教育工学・学校経営。長年にわたり教育と情報化のテーマに取り組む。主なプロジェクトとして、全日本小学校ホームページ大賞（J-KIDS大賞）企画運営（2003～2013）、文部科学省・学校の第三者評価の評価手法等に関する調査研究「学校からの情報提供の充実等に関する調査研究」（2008）、文部科学省・緊急スクールカウンセラー等派遣事業・東日本大震災被災地のための学校広報支援「ともしびプロジェクト」（2011～）など。

- 経済産業省「未来の教室」STEAMライブラリー教材コンテンツ開発担当（2020・21年度）
- 島根県雲南市「GIGAスクールサポーター配置事業業務委託」（2021年度）担当
- 埼玉県鴻巣市「鴻巣市立小・中学校のGIGAスクール対応」『1人1台学習者用端末の立ち上げ支援』（公益財団法人学習情報研究センターからの再委託）（2021年度）担当
- 日本デジタル・シティズンシップ教育研究会 共同代表理事（2022年～）



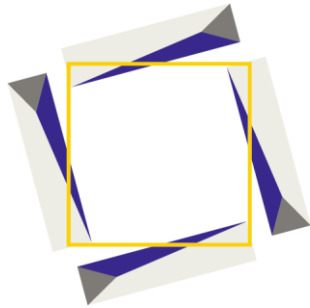
プロジェクト担当：

小林 奈穂

国際大学GLOCOM
プラットフォーム研究グループ
主幹研究員／研究プロデューサー

2000年よりデジタル&リアルメディアを横断したデータドリブンなコーポレートブランディングやコミュニケーション戦略企画・開発のプロデュースに従事。2015年より現職。スタートアップやクリエイティブエージェンシー、大企業など幅広い組織にて、多様な専門性を持つ人々との協働プロジェクトを経験。個人と組織の創造性に関する研究や、GLOCOM 研究員の産学連携プロジェクトのマネジメント、GLOCOM 六本木会議の事務局長など、産官学民とともに社会の共通課題を導き、研究する各種活動の企画・プロデュースを行っている。2020年より経済産業省産業構造審議会臨時委員（産業技術環境分科会）。

- 経済産業省「未来の教室」STEAMライブラリー教材コンテンツ開発 統括（2020・21年度）
- 株式会社イトーキ×国際大学GLOCOM「未来の学びの場」共同研究プロジェクト（2021年）
- 学術・政策提言プラットフォーム「GLOCOM六本木会議」事務局長（2017年～）
- 経済産業省 産業構造審議会 臨時委員（産業構造審議会産業技術環境分科会、2020年～）



GLOCOM